日本、韓国、シンガポールに共通する「少子高齢化」への多面的解決可能性の探索

古川和稔[1)]、大川井宏明[1)]、Donald Glen Patterson[1)]、
野田由佳里[1)]、落合克能[1)]、

[1)] 聖隷クリストファー大学社会福祉学部介護福祉学科、

【目的】

日本、韓国、シンガポールには、今後高齢化率が世界の上位に位置すること、公的介護保険がすでにあること、そしていずれも東アジアに位置するという共通点があり、少子高齢化への対応に焦点を当てた研究者間の議論と解決可能性の検討が大きな意義をもつと考えたことが本研究の背景である。

本調査の目的は、少子高齢化対策に関して、日本、韓国、シンガポールにおける共通点と相違点を見出し、その解決可能性を検討することである。

【方法】

韓国、シンガポールとも、関係者間の意見交換により課題を抽出した。研究会議形式で実施したが、会議内容は録音せず、メモを元に情報を整理した。

本調査は、聖隷クリストファー大学倫理委員会での倫理審査の承認を受けてから実施した（認証番号 18017)。

【結果】

少子高齢化問題に関する課題や対応について、日本、韓国、シンガポールにはいくつかの共通点があることが明らかになった。3 か国に共通していることは、急速に進む高齢化を国家的課題と捉えていること、治安が良くインフラが整備されていること、ケアマネジメントの視点が重要だと認識していること、介護を担う専門職の専門性向上が課題になっていることである。

一方で、現時点はそれぞれの国における独自の課題と思われる事象も抽出された。例えば、現在日本が向き合っている外国人介護人材の問題がその一例である。日本では生産年齢人口減少の背景もあり大幅な介護人材不足が予測されている。その対応として外国人介護人材の参入を制度化する動きが進んでいる。韓国とシンガポールにおいては、他業種では外国人人材の活用が進んでいるが、介護人材についてはこれからという状況である。

【考察】

韓国、シンガポールともわずか数日間の滞在であったが、事前に頻繁に電子メールやスカイプでコンタクトを取り、充分にコミュニケーションを図ったうえでの訪問だったために、スムーズに研究会議を行うことができた。今回は少子高齢化問題に対する解決可能性の探索に留まったが、今後は実際に解決に向けた具体案を作成し、実践していくことになる。日常的に連絡を取り合い、また他業種や他領域の専門家とも連携しながら本研究を継続していきたい。

【論文発表】

日本、韓国、シンガポールに共通する少子高齢化への多面的解決可能性の探索：
古川和稔、大川井宏明、Donald Glen Patterson、野田由佳里、落合克能．聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要，第 17 号，(2019).